

# 成東高校同窓会報

## 遊び上手



同窓会長  
清水新次  
(高15回)

三歳になる孫が来訪するとまず発する言葉が「ジイジ遊ぼう！」です。

孫にとつて、今、遊びは生活の全てです。

一般的に遊びというと「遊学」などは別として、「遊び人」、「遊女」など、昔から必ずしも良いイメージのある言葉としては使われてこなかったようです。

ちなみに辞書をひくと

①命令、強制、義務でなく自分のしたいと思うことをして時間を過ごすこと。

②酒色やばくちに耽ること。

③機械の部品と部品の間の余裕などがあります。

また、遊びのできる人は、仕事もできるとよく言われますが、それは遊びが仕事に疲れた心身をリフレッシュさせ、更に遊ぶ時間を得るために、効率的、集中的に本来の仕事をすることになるからでしょう。

そして遊び上手の人は、多くの友人、情報を持ち、話題も豊富で人間の幅を感じさせ、魅力ある人であることが多いと思います。

ところで人の遊びも年代により変化してゆくと言われます。まず第一段階が若い時期の「動物的遊び」、特に異性を対象とする遊びでは、財力、体力、精神力など大変なエネルギーを必要とするでしょう。第二段階は、熟年からの「植物的遊び」、植物が相手では、水遣りや土いじりをする程度で

しょうか。最終段階は、老年の「鉱物的遊び」、石などの鉱物が相手ではもう殆どエネルギーは要らないでしょう。

遊びも、個々人、年代、時代などにより、いろいろありますが、度を越すと時として身を亡ぼすことにもなるでしょう。心豊かで余裕のある人生、生活を送るためには、自分に適した遊びを身に付け、「遊び上手」になることがとても大切だと思います。

まもなく桜の花の季節を迎えますが、母校で恒例の「観櫻會」が開催されます。できるだけ多くの会員が「桜花を愛でる遊び」に参加され、互いの交流を通じ、絆をより強くしていただくことを願っています。

会員の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り致します。



漫画家 立原あゆみ氏作品「二年秋」 ペンネーム 立原あゆみ氏より寄贈 (本名 市川洋一氏 高17回)

## 第7号

2017年3月1日

発行

成東九十九同窓会

編集責任者

齊藤 功(高22回)

印刷 (株)サラト

## 学校規模

クラス数	21クラス (各学年 7クラス)
生徒数	合計848名
男子	463名(54.6%)
女子	385名(45.4%)
卒業生数	
合計	29,011名
旧制中学校卒	4,620名
併設中学校卒	545名
新制高等学校卒	23,846名

(平成29年3月1日現在)



# 第111回 九十九同窓会 定期総会報告



平成28年8月7日(日)午前10時より、本校百周年記念館にて開催されました。

例年通り、八月第一日曜日午前一〇時に定期総会を開催いたしました。今年度は、高校第二六回卒業生の皆さんにご案内をいたしました。当日の参加者は五十九名を数えました。内容は左記の通りでした。

## 記

- 一 開会挨拶 谷本篤 副会長
- 二 清水新次同窓会会 長挨拶
- 三 上代真澄校長挨拶
- 四 議事
- (一) 会務・会計報告
- (二) 監査報告
- (三) 会報発行について
- (四) 会員名簿作成について
- (五) その他

## 五 講演

関谷田鶴子氏(高二六回) 短歌誌「地中海」の編集人として活躍されている関谷田鶴子さんのお話を伺いました。概要は別記事をご参照ください。

## 六 閉会挨拶 谷本篤副会長

その後、地元山武市成東の「米作」に席を移し、懇親会を和気藹々と執り行いましたことをご報告申し上げます。

## (資料)

一、平成二七年度会務報告

二七年

六月二三日 会計監査

同 役員会

八月二日 同窓会総会

九月一九日 東京九十九同窓会

十一月二日

千葉県庁九十九会

十二月二日

横芝九十九同窓会

二八年

一月一六日

千葉県警九十九同窓会

二月一八日

九十九同窓会大平支部

三月四日 同窓会入会式

三月五日 卒業式

(卒業生三二四名に卒業証書ホルダー贈呈)

## 二、平成二八・二九年度

### 同窓会役員一覧

会長	清水 新次(高一五)
副会長	谷本 篤(高一三)
副会長	布留川信行(高二〇)
副会長	真壁 力(高一九)
副会長	野山 敦子(高三五)
副会長	前嶋 康夫(高二四)
副会長	上代 真澄(高二八)
幹事	金田 重興(高一五)
幹事	内藤 光雄(高二二)
監事	西川 泰雄(高一二)
監事	岡村 新吉(高一二)

## 講演記録

# 成高／わたし／短歌

関谷田鶴子



【高校時代】現在も関谷ではなく旧姓のままで活動しておりますので、同級生は久我田鶴子のほうが馴染みが良いのではと思います。九十九里の、すぐ後ろが東金市という町外れに生まれ育ちました。交通の便が非常に悪い所で、片道9kmを毎日自転車です通っていました。青木慶成先生という「伝説の」と言うか恐怖さえ感じる方もいると思いますが、私はその青木先生と田んぼを隔てたところに住んでいたのです。そういうわけで、授業を受けていると「久我、昨日遅くまで勉強してたな。」なんて言われて。灯りが点いているのが見えてしまうんですね。だから先生の家の方だけは雨戸を閉めるようにして、こそっとしていません。まあ、勉強していたわけではなく、深夜放送を聞いたり

いろいろなしていた訳なんです。高校時代は暗黒時代でした。中学校時代は自分を変えようと生徒会活動をしたり、外へ向かって一生懸命にやっていたのですが、その反動か高校時代は内向きな人間になりました。同じぐらいの力の生徒が集まってくるわけですから、自分もさほどではないとわかるわけですね。挫折感でコンプレックスの塊のようになっていました。それから受験のためには勉強だと理解はしても、それに乗っかって私もうまい思いにはないで、とにかく本を読んだり書いたりというところは続けていて、悶々とした高校時代でした。担任の先生にとっては扱いにくい生徒だったのではないかと思います。それで、自分が教師になってみると因果応報で、生徒に何か問題がある時は「因果応報、南無阿彌陀仏」と唱えながら、なんとか逃げ切るとい感じでした。【短歌結社に入り】大学に行って「このまま年を取ってしまったて良いのかな」と感じました。感性も



言語に対する感覚も衰えさせて、そのまま落ちていくのかと思った時に、ものを表現するということに立ち返ったわけなんです。高校時代にも詩らしきものを書いていて、周りの人達に手作りの詩集を回し読みしてもらったりしていましたが、大学に行ってから短歌を作るようになりました。作ってみると短歌の五・七・五・七・七というリズムが自分の体内のリズムにすぐ合っているように思えたのです。作品を見てもらうのは大学の先輩で、文通みたいな形で作品を見てもらったことをしていたんですけれども、その人が「地中海」という短歌結社に入っていて、いつの間にかそこに私も入れられていました。

「地中海」は昭和28年に香川進が創刊した雑誌で、この9月で通巻700号を迎えます。「地中海」は、グループ制をとっており、私は小野茂樹という人が作った羊グループというところに入れられていました。小野茂樹という歌人も、香川進という人も知らないままに、そこで短歌を作っていました。趣味を超えたところで意識的に短歌を作ろうと思ったのが20代で、角川短歌賞というものに応募しました。何度か応募して2回ほど短

歌賞の候補になったのですが、賞を取るところまでは至りませんでした。でもそういうことがあったから、短歌誌に書評を書いたり、作品を発表するという機会も回ってきたのだと思います。

【仕事と短歌】教員をしながら歌を続けて、最初のうちは仕事と短歌というものを分けて考えていました。仕事の中に短歌を持ち込まない、短歌の中に仕事の歌を入れないとしていたのが、2校目あたりからそうもいけなくなり、教師としての歌も作るようになりました。そして、後から振り返ると、なぜか教師としての歌が私の作品の中で取り上げられることが多かったのです。自然の歌とか、親たちの歌とか、或いは女としての歌とか、いろいろな歌を作っているにもかかわらず、仕事の歌がいろいろなところで取り上げられるということがありました。自分では、皮肉だなという感じがするのですけれども。

【教職を離れて】勤続30年という節目で、8年を残して教師を退職しました。辞めてどうするということもなく、ゆっくりとリハビリ期間を設けたいなと思っていましたが、待つてましたとばかりに「地中海」の編集長の仕事が来ました。

編集には30代から関わっていたのですが、その中心になってやっていくことになり、現在もそれを続けています。編集委員達はみんな年上で一番下の私が仕切っているという感じです。申し訳ないようですけれども、短歌の雑誌にしては俳句の雑誌にしても年配者が多いですから、若いと言われるようになってきて、60になってもまだ若いと言われるような組織の中で、編集人をやっております。「地中海」編集の他にも、会員の歌集出版の手伝いをしたり、なぜか教科書の指導書の仕事が回ってきたりもしました。「NHK短歌」で文法のことを2年間ほど書くということもありました。そういうところを見ると、教員をやっていたのも無駄ではなかった、こういう所で生かされているという感じがします。文法云々に関してはあまり苦労はしませんでした。それは例の先生が、高校時代に叩き込んでくださったからで、当時は「なにくそ」という感じで、その先生に負けるものかと思ってやっていたのが、一生の宝になっていきます。人から聞かれてもある程度は答えられるという、自信にもなっていると思います。ありがたいことです。

先生の指導はガンガンやるだけではなく、「自分が知っているのはこれだけだ。ここから先は自分で学びなさい。」という言い方をしてくれました。その教師としての謙虚な姿勢は自分の教師生活にも生かされていたと思います。

今年の6月に新しい歌集を出し、8番目の歌集になりました。これには2011年の3月から2015年までの作品を収めました。2011年3月といいますが、東日本大震災です。その年の正月に父が亡くなりまして、ぼうっとしている間にあの震災が起こり、私の家も結構揺れました。これは死ぬなという思いをしました。東北の方ばかりに話題がいつてしまっていますけれども、千葉でも津波の被害や液状化などいろいろなことがあったわけですね。あの体験の後で周りの人達を見ると、急に年老いてしまったと思うことがありました。それだけのダメージを精神的にも受けたということではないかと思えます。

今度の歌集『菜種梅雨』も、自分では、思いがけない歌が取り上げられ紹介されるということがありました。作品というものは作った時点で作者の手を離れて別の生き方をすることがありますけれども

も、それも今は楽しみながらやっていきます。

教職を離れて8年経って、少しずつ教員の枠みみたいなものがほぐれてきたのかなと思います。教員時代はガシッと何かをしなればとか、何かを教えなければというのがありましたが、そういう思いから解放され、もっと自由で良いなども思っています。

暗い高校時代だったと言いますが、こうして思い返してみますと、たくさんさんの恩恵をもらっていた有り難さをしみじみと実感させられます。そういうことを改めて考える機会を与えていただき、どうもありがとうございます。

#### 講師略歴

関谷田鶴子（せきやたづこ）氏

短歌誌「地中海」編集人

現代歌人協会理事

高校教師として県内4校、30年間勤務。國學院大学在学中に「地中海」に入社。昨年6月に第8歌集『菜種梅雨』を出版。

# よ、「生意気」であれ!



青木慶成先生

## 「青木が来たら逃げろ」

昭和年代後半の卒業生にとっては、まさに「成東高校といえば青木先生」だったんですけど、意外に誤解されていることもありま

す。誤解じゃなくて、本当のことが多

いんじゃないか(笑) まず、失礼な話ですが、お

名前の読み方自体が……。青木慶成は「あおきよしなり」ではないんですよ。「けいせい」と読む人もいますが。

「よしあき」だね。秋はものなるの「成」だから。僧籍なので坊主読みで「けいじょう」という読み方もあるね。

次の誤解ですが、先生にはあまりにも成東高校のイメージが強いので、卒業生の多くが先生ご自身が成東高校のご出身だと思ひ込んでます。

職員の中にもいてね。職員の僕に対する見方が二つあってね。「あいつ卒業生でもないのに、同窓会の仕事もしてたりして。なんだアイツ」とアイツは卒業生だから、ああなんだ。

先生が成高の卒業生であることを疑ったことがあります。実は長生高校のご卒業ですよ。そこから千葉大へお進みになった。

変な巡り合わせで、僕は新制高校、新制大学の一期生なんだ。小学校は「国民学校」。新制中学も一期生。茂原に住んでいたの

で、成東高校もそうだった。成東高校で、佐倉高校との野球の練習試合があつて成東が負けた。腹いせに成東駅で佐倉高校生に集団暴行したなんていう記録が校史にある。

—— 蛮勇を好むという。 そう。「時代」だったんだよ。東金高校の生徒とラブレターのやりとりをしたからといって、退学になった成高生もいっぱいいたんだから。女房の親戚にもいてね(笑)。

先生が新卒で成高にいらつしゃつた時、奥様は生徒だったんですか。 二年生だった。 お嬢さん、お孫さんも成高卒ですよ。 他に行くところがないからね。 お召し物でも伝説があまりますよね。青木先生はいつも同じ服を着ているという……。

初任の時、「センセイ、今日でネクタイ何本目ね」って言う生徒がいたの。それからネクタイをするのをやめた。実は、ワイシャツを買う時には、同じ柄のもの必ず二枚買うことしてたんだよ。生徒には、「一枚しかねえんだ」って答えることにしてたんだ。そして「先生、きつたねえ」(笑)。

第三の誤解は先生が誘導されてたんですね。

そう(笑)

怖いというイメージもあるよつです。ただ、ご授業は嚴格でしたが、記憶違いでなければ、いわゆる「ワモテではいらつしやうなかつたのではないかと。怒つても仕方ないからね。

二十一期生の時だったかな? 当時、就職クラスというのがあつてね、僕がそこを教えることにした。最初の授業に行つたら、生徒の第一声が「センセイ、詐欺だ」。

「何でだ」だつて就職組に行けば、青木に教わらないって言われたからこのクラスを選んだのに。それが一番可笑しかった思い出だね。いつだったか、生徒会誌『九陵』に「青木の姿を見たら逃げろ」って書かれたこともある。あれは驚いたよ。

—— 実際に逃げられちゃつたこともありました。初任時、クラスという校史に残る事件です。 その頃の成高は、漱石の『坊ちゃん』さながらだね。成高生はストライキが好きなんだよ。高校の歴史を振り返ると、さかんにストライキが出てくる。校長が教師をクビにした。あんないい先生をなんでクビにしたんだつてストライキというパターンなわけだね。

先生の事件の時は、千葉大出たての新米が生意気だから逃げたよ、その時の生徒の一人から聞いたことがあります。 当時、成高は東大や一橋に合格

する猛者がゴロゴロいるクラスを新卒の先生に持たせたりして鍛えたんだね。まことにありがたいことだけど、教える方にとってはたまらないよ。で、そういう連中だから、教師を試すために、わざと裏山に逃げたりするんだ。

—— そんな時は授業どうするんですか。 いる連中だけでやるよ。「今日は少ねえな」なんていつてね。鍛えられたね。僕の原点だね。

「できて0点」で伝えたかったこと。 「誤解」も解けたところで、いよいよ成東高校のお話を伺いたいのですが、卒業生にとって、青木先生と言えば「できて0点」のテストが何ととっても強烈に印象に残っています。

一年生の一学期、古文の助動詞の活用だね。 生徒がよく文句言つてきたから、「おまえなあ、自動車教習所で教わつたことが、現実の運転で起きるか。現実の運転は教習所じゃ教わんないことばかりだぞ」って説明してた。

文法のように、覚えてしまわなければいけないものは、覚えるしかない。だからできて0点。本当の評価は、それができてから始まるんだね。僕は、テストの点というのはメッセージだと思つてる。 テストでマイナス×点がつくと、生徒は「ああ、俺は努力しなかつ



# 成高生

今回のインタビューは、学ご卒業後、昭和33年に導され、不幸にも（幸運に）なり、また奇遇にも、ながらも、昔と変わらぬシ

「たんだ」と、ストレートかつしみじみと実感できる。その実感のため「できて0点」なんだよ。

授業は、教師と生徒との「間柄」だ。目の前にいる教師と生徒の關係で授業内容も評価も決まるわけ。

だから、学年末評価はみんないい点になっていただろう？「なんで、こんなにいい点がつくんですか」「しごき代だあ」(笑) 途中経過の点は、生徒を激励するメッセージなんだよ。点数そのものはナンセンス(それだけでは意味を持たない)だからね。もともと、それで他の先生と論争になったりもしたけどね。「5点は5点です」「いや、そうじゃない」なんてね。他の教員から嫌がられるんだよ。生徒にも嫌がられてたけどね(爆笑)

## 「九陵自治」休刊の真相

——先生は、生徒会誌『九陵自治』をはじめ、『九陵』や校史といった、成高関係の出版物にも、たいへんお力を注がれたわけですが。

これは今まで誰にも言わなかったことだけれども、古い『九陵自

治』には広告が載っているだろう？ その広告収入が職員には把握されず、出版委員会の自由裁量で使われていたんだ。「良くないな」と思いつつも、お金のことな

んで黙っていたんだが、原稿を書ける生徒が減っていったこともあったので、いつそのこと休刊しようかと……。

——それで一時『九陵自治』が休刊したんですね。その後、周年記念の時だけ出してはいたんだが、やがて、事情を知らない生徒会顧問から新聞を復刊しようという提案があって、復刊したんだね。

——校史には「生徒が書けなくなつたから」休刊したと書かれていたんですが、僕自身出版委員長でしたので、「いや、何か違う事情があつたんだらう」と思っていました。

出版委員が原稿を書かなくなつたということも、たしかにあつたよ。

——生徒会が年一回『九陵』を発行してました。十八回生の時に第一号を出した。第九十一号まで僕が関わつてたんですが、僕が卒業したら急に厚くなつちゃつた(笑)

厚くなった理由が、後々分からなくなるといけないから話しておく。もう時効だろうから。

当時、校内にはいろいろな出版物があつてね。運動部の刊行物から、保険組合の報告に至るまでね。

それらを一冊にまとめれば、みんなが読めるのに……。

それがなかなかうまくいかなかつたウラ事情は、まだ言わない。

——他校では紀要誌が出せなくなつて久しいのですが、成高では『九陵』が発行され続けています。教師や生徒が自由にものを書ける土台が存在していることは、実際に誇るべきことで、先生のご英断の成果だと思えます。

それから、周年記念誌。これ、かつては刑務所で印刷してたんだ。当時、最先端の写真植字機があつたし、安くて丁寧で。ただし時間がかかるというね。刑務所は残業しないからね。

刑務所つて面白いんだ。入所者のタイプ(人柄)で仕事を割り振るんだね。印刷は学歴があつておとなしくてとかね。それでもなおかつ部屋の四隅には刑務官が監視しててね。

——「見学なされたことがあるんですか？」見学じゃないよ。校正に行つたんだ。大塚洞元先生とね。

——えーっ？

「成高生よ、「生意氣」であれ」

——現在の成高生をご覧になつて、どう感じられますか？

とつぱずれた生徒がいない。運動部なんかおとなしく帰るなあと。昔は自己紹介をさせると「僕は国語の先生をいじめるのが趣味です」「おもしろいな。やつてく

れい」(爆笑)。そういう生徒が、教えていて楽しいよね。

——最後に、教え子たちに一言。できて0点のような授業をやる、「チクショウ！ やるか」という生徒が良くて一割、反発する生徒が一割から二割、残り「どうでもいいや」。

昔『奥の細道』の丸暗記をやらしてた。医者になつた奴が、こないだ来て家内に「今でも覚えてます」つていつてたね。

学ぶことに、「無駄」つてものはないんだ。無駄なく教えたり試験をしたりするのは、善し悪し……と言ふより「悪し悪し」だよな。——合理性にすぎるといふ。

現在の運動が教習所通りにはいかないように、何事にも「先生様々」つていうんじゃない、教師としても困つてしまう。教師にある時は反発し、あるときは賛成し、あるときは「まあいいや」と妥協して、それがいいんじゃないかと思ふよね。

——成高生よ、「生意氣」であれですね。有難うございました。

## 観櫻會と総会のお誘い

例年、本校では四月の第一土曜日に、校内九十九本の桜を一般公開し観櫻會を開催しております。同窓生の皆さんのご参加を心よりお待ちしております。



また同窓会総会は、毎年八月の第一日曜日です。還暦を迎えられた学年の方々には直接ご案内状を送らせて頂いています。今年度は昭和五〇年卒業(高二七回、理数二回)の方にご案内します。当日、学年同窓会も企画しております。ふるってご参加ください。

詳細は本校のHPをご覧ください。  
<http://cms2.chiba-c.ed.jp/narutou-h/>

# あの頃に帰りたい (でも、みんな、思ったより若いね)―― 26回(昭49)卒業生同窓会

去る八月七日(日)、同窓会総会及び懇親会後に、第二十六回理数科(一)卒業生の還暦同窓会が、東金市のエストレーホテルアンドテニスクラブの宴会場で実施されました。

参加した同窓生は約百名、恩師、清水同窓会長、上代校長を囲んで、若き日の思い出話に花が咲きました。

当日、ご列席頂いた恩師は次のとおりです。

- A組担任 南部裕昭先生
- B組担任 秋山岩雄先生
- C組担任 山崎幸雄先生
- H組担任 (一年次) 橋岡祐行先生

国語担当 青木慶成先生



ご多忙中お越し頂いた恩師の先生方(特に橋岡先生におかれましては、九州からのご参加誠にありがとうございます。並びに、本同窓会の開催にあたって全力を尽くしてくださいました川戸功一(B組)幹事長をはじめとする幹事会の皆様にも多大なる感謝の意を表し



ます。川戸幹事長は、この会の企画を数年越しで準備してくださいました。東金市に在住しておりまして、近くで会った折には、ねぎらいの一言をかけてやってください。

ここ数年、九十九同窓会では、還暦を迎えた卒業生に、同窓会総会の招待状を送付しております。また、総会後、可能な限り同窓生があつまり、旧交を温めるのを例としております。

清水同窓会長も、卒業生に会えることを心待ちにしていらつしやいますので、後輩諸君も、ぜひぜひ成長に足を運んで頂ければ幸いです。

今回のように学年独自に会を企画することが難しくても、例年開いている同窓会総会後の懇親会にお集まり頂ければ、懐かしい顔に合うことが可能です。九十九同窓会の発展のためにも、皆さんのお顔が同窓会総会で見られますことを、心より願っております。

## 東京九十九同窓会

昨年九月十七日(土)に東京丸の内の「日本工業倶楽部」で、清水同窓会長と上代校長をお招きして同窓会を催しました。

今回の会の眼目は、東金市長志賀直温氏の講演です。お話しは

## 九十九同窓会 大平支部

昨年二月十八日(木)に山武市松尾町の「レストラン魚屋」にて、恒例の大平支部の同窓会が催されました。当日は猿渡校長をお迎えし、十一名でなごやかな語らいのひとときを楽しまました。

【事務局】  
二階堂発行(高三回)  
TEL:0479-18613237

## 昭和五十一年卒業学年同窓会

一月二十一日、千葉市の京成ホテルミラマールで昭和五十一年卒業(高二八回・理数三回)の学年同窓会が開催されました。

学年主任の松戸健先生はじめ五名の先生方がご臨席くださり、卒業生の参加者は八十八名を数えました。どのテーブルも当時の思い出で盛り上がり、春に先がけて、話の花が満開でした。

## 千葉県警察九十九会

「成東高校創立の経緯」から紐解かれました。四十九名の参加者は、熱い志で学校を創立した故人が当時直面した難局と、それを乗り越えた労苦の数々へ思いを馳せました。そして話題が「これからの地方創生へ」と繋がっていきにつれ、故郷の将来の展望を思い描いて、心の丈の伸び

る時間を共有しました。今回は、平成二十九年九月十六日に日本工業倶楽部で開催の予定です。首都圏在住・在勤の同窓生はどうぞご参加ください。

## 千葉県警察九十九会

一月十四日(土)に三井ガーデンホテル千葉にて、清水同窓会長と上代校長をお迎えし、恒例の千葉県警察九十九会の総会および懇親会が開催されました。

倉本武夫会長はじめ六十八名の参加者は、和やかな懇談の中で、普段の苦労を労いつつ明日への英気を養いました。

## 横芝九十九会

横芝九十九会の第三回総会が、昨年十二月十七日(土)に清水同窓会長と上代校長をお迎えし、横芝光町「丸七」にて行われました。

議題として、内規改正・役員改選について協議され、全会一致で承認されました。その後、懇親会が行われ、一年ぶりの再会を喜ぶとともに、

【事務局】  
椎名康雄(高一八回)  
TEL:03-1529813612  
FAX:03-1529813613  
E-mail:shimane@ten-inc.co.jp

## 千葉県庁九十九会

昨年十一月九日、県庁に近い「プラザ菜の花」で恒例の千葉県庁九十九会が開催されました。清水同窓会長と上代校長をお迎えした川嶋博之会長はじめ四十九名の参加者は久闊を叙し、懐かしい顔ぶれでの語らいに公務の疲れを癒やしました。

普段話すことのできない異業種の方々との会話の中で、新たな世界を垣間見ることができ、大変有意義な一時を過ごしました。

【事務局】  
押尾長晴(高二回)  
TEL:0479-18215624  
遠藤亮一(高三回)  
TEL:0479-18213160  
山本明男(高三回)  
TEL:0479-18213243  
高蝶政道(高二七回)  
TEL:0479-18215292  
本田和夫(高三〇回)  
TEL:0479-18216442



# 着任にあたり

校長 上代真澄



同窓会会員の皆さまには益々ご健勝のことと拝察いたします。また日頃より母校の教育活動に格別のご高配を頂戴し、あつく御礼を申し上げます。

今年度の人事異動により千葉県立千葉大宮高等学校から着任いたしました上代です。どうぞよろしくお願いたします。

さて現在の成東高校は各学年7学級、848名の在籍となっております。教育を通して、国家の形成者として社会貢献し、国際競争に対応できる基盤となる態度や能力の育成及び資質の向上を図ることを教育目標として掲げています。

本校は平成22年度に千葉県教育委員会より「進学指導重点校」の指定を受けておりましたが、今年度から新たに「単位制」が導入されました。教員数も増加し、習熟度別・少人数制授業を数多く展開することが可能となっております。また多様な進路希望に対応し、29年度から3年次に約30

科目から科目選択ができる教育課程に改善しました。学校設定教科「つくもタイム」として、キャリア教育を図る次の3科目を開講する予定です。

「教育基礎」は、千葉大学・敬愛大学・成東小学校にご協力いただき、教職を目指す生徒の職業観を深め、職業意識を高めることを目的にする講座です。「ヘルスケア基礎」と「多文化共生」の2講座は、城西国際大学と教育提携を結んで開講し、看護医療・福祉分野と、国際教養・異文化理解分野を探究的に学ぶ、時代に即応した特色ある講座です。

部活動も加入率が92%と活発で、創立以来百有余年を経た現在も文武両道の校風が脈々と受け継がれております。陸上競技部の陶山雄太君が昨年・今年とインターハイのハンマー投げに出場し、昨年8位入賞を果たしています。その成果の一端です。

今後とも、自己実現を果たしつつ、社会で逞しく生きていく力をも身につけられる教育活動を推進し、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりに努めてゆきたいと存じます。

同窓会会員の皆さまには引き続き母校成東高校のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。九十九同窓会の益々の発展を祈念いたしまして、着任の挨拶といたします。

## 寄贈品の御紹介

寄贈者

○小川雄二郎氏(中三一回)

1、銀杯

銘「贈呈小川先生 成東中學校職員生徒一同」

本校職員小川潤一氏(在職大正九、昭和十、英語)

に贈られた記念品

2、成東中学校第二八回卒業記念アルバム(昭和七)

伊庭写真館(旧成東町平成二七年度総会記念講演者 伊庭みか子さんの御実

家)撮影

第五代校長中山音弥氏の時のもの。小川潤一氏が主任(担任)の一人であった。

「各主任諸先生」頁右から二人目)

3、運動部記念写真

伊庭写真館撮影

競走部(陸上競技部)

「房総風土記」

「玉浦をつくった一族

インベ氏ものがたり」

○久我(関谷)田鶴子

「菜種梅雨 久我田鶴子詩集」

この年は私学受験で特筆に値する成果が上がりました。東京六大学をはじめとする諸大学で健闘し、合格総数も例年を大いに上回る数となりました。入学後の活躍が期待されます。

## 平成28年度 入試合格数 (延数・抜粋)

国公立大学			上智大	3
大学名	新卒	旧卒	昭和女大	1
帯広畜産大	1		昭和女子大	5
東北大		1	成城大	4
山形大	3		専修大	14
茨城大	3		創価大	8
筑波大	1		大東文化大	6
宇都宮大		1	千葉科学大	4
群馬大		1	千葉工業大	20
埼玉大	2		中央大	15
千葉大	13	4	帝京大	9
東京学芸大		2	帝京平成大	8
横浜国立大	2		東海大	8
新潟大		1	東京医大	1
信州大	2		東京女子大	3
佐賀大	1		東京電機大	3
千葉保健医療大	3		東京農業大	3
横浜国立大	1		東京薬科大	2
都留文科大	1		東京理科大	8
公立鳥取環境大		1	同志社大	2
国公立大 計	33	11	東邦大	22
			東洋大	39
			獨協大	3
			二松学舎大	5
私立大学			日本大	66
青山学院大	10	2	日本歯科大	1
亜細亜大	7		日本獣医生命科学大	1
大妻女子大	5		日本女子大	7
学習院大	6	1	日本体育大	1
神奈川大	2	3	日本体育大	1
神田外語大	21	2	日本薬科大	1
関西学院大	1		フェリス女大	2
北里大	7	2	文教大	4
共立女子大	10		法政大	45
杏林大		2	星薬科大	1
慶応大		2	武蔵野大	12
工学院大	2		明治大	17
国学院大	9	2	明治学院大	14
国士館大	13	3	横浜薬科大	5
国際医療福祉大	11		立教大	10
駒沢大	38	3	立正大	12
自治医大		1	立命館大	2
芝浦工大	6	2	早稲田大	3
淑徳大	7	1	和洋女子大	6
順天堂大	9	2	その他	58
城西国際大	8		私立大 計	630
				88



3年D組 齋藤 準

先輩方が成東高校を巣立つ日も、もうすぐそこに来ています。

この1年間、いや入学からの3年間は本当に早いものでした。中学3年の夏に110mハードルで県1位になり、全国大会でも入賞していた僕は、このグラウンドで自己記録をどんどん更新するつもりで入学してきました。

# 誌上往復書簡

この春に卒業する在校生、そして卒業一年目の同窓生の経験や近況を、往復書簡の形で掲載しました。



早稲田大学 文化構想学部 角田 千夏 (高68)

未知の世界に無防備のまま飛び込んでから、この一年間は目まぐるしい速さで過ぎていきました。ちょうど去年の今頃、苦しみながら闘った大学受験が遙か昔のことのように思われます。

四月、慣れない都会での一人暮らしに戸惑いながら大学生活が幕を開けました。授業で興味のある分野を専門的に学ぶ毎日

しかし高校種目でハードルの高さが10cmほど上がると大きな壁に突き当たりました。着地した瞬間に「ぐっ」ときて跳びながら加速していく、あの体感が掴めなくなりました。記録も伸びず苦しみました。それでもきつい練習に取り組み続けられたのは、仲間がいたからです。

この成東高校で多くの仲間と技を磨き合った時間は僕にとってかけがえのないものだったと、振り返って感じています。インターハイ入賞を目指してきましたが、400mハードルで3年の県総体4位、南関東大会は

7位でした。6位入賞とインターハイ出場を叶えずに競技を終えたことには悔しさが残ります。でもその7位になったラスト

レースで自己ベストを出せたのは確かな手応えとなりました。受験を控えた僕達はそれぞれの目標に向かって努力しています。僕自身もチャレンジャーで、今また眼前に聳える岩壁を登る思いの日々です。

先輩方のこの1年間はいかがでしたか。高校を卒業して一人始める新生活は僕達には未知の時間、きつと予想もつかないことが起こるのでしようね。

はとでも刺激的です。今まで知り得なかつたことを学んだときには目前に新しい世界が開かれて自分が拡張されていくような感覚に陥ることもあります。その感覚が一步一步を積み重ねていく実感へと繋がり、一年前の自分からの成長を、今、確かなものとして確認できています。

大学はあらゆる面において高校とは比べ物にならない規模の大きさと、出会いとチャンスの数が格段に増え、何においても選択の幅が広がります。自分次第で何でも出来る自由と、だからこそ付き纏う責任。でもまだ

失敗が許される大学生という自分に甘んじて、やりたいことを全部やり尽くそうという活力が漲っています。時間はあるけれどお金がない、お金がある時には時間がないという命題は学生には普遍的で不可避なものです。今だからこそできることをたくさん経験して、大学生活を色鮮やかなものに使いたいのです。

私たちは来年、成人します。体は大きくても中身はまだ未熟です。それでも、少しずつ、しかし着実に、周囲に研磨されながら大人への歩を進めていきます。

# 編集後記

齊藤 功

九陵の山笑う季節となりました。会報第七号をお届けいたします。前号で、初代編集責任者の畑戸輝夫先生がお伝えになりましたように、今号より不肖私

がその後を引き継ぐこととなりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年夏の編集会議の結果、紙面構成を若干改めました。この頁に「誌上往復書簡」という欄を新設しました。卒業生と在校生が互いに手紙を出し合うという形で交流を図つたものです。

これは、これまでの「創立百周年記念グッズ」の宣伝が広く行き渡つたことと、畑戸先生が第三号の編集後記で述べていらつしやる「ゆくゆくは同窓生同士の交流の場としてお役に立てることを目指し、編集に取り組む」姿勢を実践し、さらなる前進を試みたからです。会員の皆様のご感想など頂けましたら有り難く存じます。

私ごとになり恐縮ですが、特集記事の田井中善夫編集委員取材の青木慶成先生について、少しばかり、先生のお名前は一年上の先輩から「原稿用紙の青木」としてよく聞かされてきました。何でも、点数の不足一点につき四百字詰め原稿用紙一枚に

漢字を書くことが課せられたのか。また、恩師中西三郎先生の日記に、国語科の懇親会で「青木君が、俳句は文学ではない、と言つた」と記されているのを読み、さすが漢文の先生だと感じました。『九陵』に掲載された青木先生の玉稿の題は、中国古典文学明代小説の『水滸伝』を彷彿とさせます。

畑戸先生の、創刊当初からのご尽力に対し、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

同窓会報のさらなる発展を期し編集委員一同努力いたします。会員の皆様のご愛読、ご支援をお願い申し上げます。(汀魚)

## 「成東高校同窓会報」

編集部

TEL:0475-823171  
FAX:0475-821014

【編集責任者】

齊藤 功 (高22回)

【編集委員】

田井中善夫

(理数1回・高26回)

多田 達子 (高35回)

鷹塚 宏倫 (高58回)